別記様式第４号

平成 30 年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成　31 年　3 月 14 日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td>保健福祉学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td>樂木章子</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="6">過疎地域におけるコミュニティアイデンティティの維持・強化に関するアクションリサーチ：鳥取県智頭町の事例</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td>役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>樂木章子</td><td colspan="2">岡山県立大学・准教授</td><td>グループ･ダイナミックス</td><td>研究全般および総括</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td>杉万俊夫</td><td colspan="2">九州産業大学・教授</td><td>コミュニティ・デザイン</td><td>フィールド研究（副）</td></tr>
<tr><td>研究実績の概要</td><td colspan="6">本研究は、鳥取県智頭町を事例として、過疎地域におけるコミュニティアイデンティティの維持・強化のための取り組みを追尾したものである。
智頭町では全６地区（88集落）のうち５地区が地区単位で地域資源を活かしたユニークな取り組みを開始している。本研究では、このうち３地区について、地区単位の活動が開始された2008年からの現在までの活動に焦点をあて、その成果と課題をまとめたものである。

①　山形地区
山形地区は高齢化率が 42%と全国平均を大きく上回り、高齢者福祉の課題を抱えた地域である。同地区では、2008 年度から 11 年間の活動実績を持つ。まずは、廃園となった幼稚園に「共育（共に育む）センター」を設置し、コミュニティの拠点とした。活動開始３年間は、さまざまな交流イベントに関する取り組みが中心であったが、2011 年度以降は、「住民が参加する高齢者福祉」を開始し、住民が地区の高齢者を支えるへと発展していった。
その代表的な取り組みとなったのが「森のミニデイ」である。「森のミニデイ」は、孤食に偏りがちな高齢者に対して共食の場を提供するという趣旨で開始されたが、年々充実し、現在では、介護予防のためのユニークなメニューや医師・看護師の回診と薬の処方等も実施されている。この「森のミニデイ」は、介護保険制度を使わない住民手作り画期的な取り組みとして注目され、他の地域へも拡大しつつある。</td></tr>
</table>

※ 次ページに続く

研究実績 の概要	②富沢地区 　富沢地区も高齢化率が 41%と高い地区である。同地区では、2012 年年度から 7 年間の活動実績を持つ。同地区ではコミュニティづくりのための組織化が最重要課題であった。活動当初は山形地区と同様にイベントを中心とした取り組みが多かったが、現在では地域経営の一環として、「きくらげ栽培」が代表的な事業となった。この「きくらげ栽培」は地区内の高齢者や障害者の就労の場となっている。 ③土師地区 　土師地区は鎌倉時代末期から史料に登場した歴史ある地区である。同地区では廃校となった旧小学校に、智頭町内で発掘された智頭枕田遺跡に関連する土器・石器など 300 点を保存し、貴重な文化財を保存する智頭町資料館を設置している。また、同地区で行われる陶芸教室は、地区内外の交流の場となっている。 　３地区とも、それぞれの地域資源を活用したコミュニティづくりを実践し、その成果は年々目に見える形で拡大してきている。しかし他方で、地区内の既存団体との連携不足、担い手の高齢化、人手不足という共通の課題が明らかになった。